

要旨

1. はじめに

ビッグデータは現在、様々な企業などで活用され始めており、新しい製品の開発や運用コストの軽減といった効果が期待されています。しかし、その導入には課題が多く、普及率は決して高いとはいえない状況です。

本研究では、ビッグデータに興味があるが導入に踏み切れていない企業を対象に、「ビッグデータとはどんなものなのか?」「何が必要なのか?」「何から始めれば良いのか?」といった解説と、導入課題の解決策・プロセスをスタートアップガイドとして提示します。

2. 背景

『2015年の国内ビッグデータテクノロジー/サービス市場規模は947億7,600万円になり、前年比32.3%増という高成長を見せています。また、2020年までに平均年間成長率25.0%で拡大していき、市場規模や2,889億円にまで到達するようです。』(IDC「Big data, business analytics to hit \$203 billion by 2020, says IDC report」

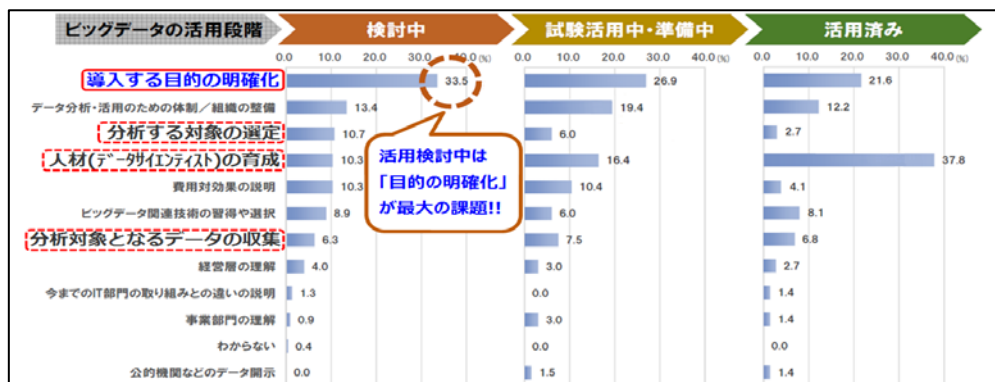
<https://www.techrepublic.com/article/big-data-business-analytics-to-hit-203-billion-by-2020-says-idc-report/>) ビッグデータ市場は海外に限らず国内でも確実に伸びている市場であり、今後もその傾向は続きます。

企業がビッグデータを活用する目的としては、「売上・利益の向上」「新規ビジネスの創出」「既存ビジネスの深耕」等があります。ビッグデータを活用することで従来できなかった大規模でリアルタイムなデータの分析ができるようになり、新たなビジネスの知見を発見することができるようになるため、上記目的の達成に大きく貢献することができます。

しかし、ビッグデータ市場が拡大しているにも関わらず、現状では一部の大手企業でしか活用が進んでいません。当研究グループでは、ビッグデータ活用の進んでいない企業が、ビッグデータ導入に対して抱えている課題を抽出し、研究を進めることにしました。

3. 課題の抽出

ビッグデータ導入を検討している企業は、以下のようにビッグデータ活用の目的の明確化が大きな課題となっています。



出典：JUAS「企業IT動向調査2016」

要旨

4. 研究方針・研究内容

「ビッグデータ活用の目的の明確化」は、ビッグデータ活用を推進する上で、データ収集や分析手法の検討よりも前段階の課題となります。目的の明確化をおろそかにしてデータ収集等をはじめてしまった事例は、殆どの場合で失敗しています。

当研究では、目的・方向性を明確にしてから段階的に進めることができれば、目的を見失わずに進められるのではと考え、方向性を見失わない方法として、全体像を見渡せるフローチャートという方法を提案します。

フローチャートの作成を行うために、作成のプロセスを以下の5段階に決めました。

- 1) 業務プロセスを設定する
- 2) 得たい効果を設定
- 3) 収集データを洗い出す
- 4) 分析方法を決める
- 5) 全体像をチェックする

※上記3)と4)は繰り返し検証・設定します。

上記のプロセスでフローチャートを作成することで、目的を明確にしてビッグデータの導入をスタートできると考えますが、実際には、何の材料もなく上記の内容を考えることは困難です。そこで、段階毎の項目設定と各段階の関連付け、さらにフローチャート作成を網羅的にサポートできる「検討シート」を作成しました。

5. 検証結果・まとめ

作成した「検討シート」を用いてフローチャート作成を進め、検証を行ったところ、項目毎の詳細の把握や項目同士の関連性の紐付けもでき、フローチャートの作成や全体的な内容の確認もし易くなることが確認できました。

今回の研究では、検証の段階で実在するデータが使用できなかった点や、実際にこの検討シートに基づいた分析が行えなかったという点で課題が残ってしまいました。そのため、今後の展開としては、あらゆる実在するデータで検証を行い、検討シートの精度より高めていく必要があると考えています。

以上

・文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する標章もしくは商号です。